

201161023 「若い日に造り主を覚えよ」

目標：聖書を開き、教師から解説を受けながら読み進めていくことを通し、人生をむなしく過ごさないためには神様を知ることが大切なのだというソロモンの結論を知る。

聖書箇所：伝道の書 12：1-14 時間：10分

暗誦聖句：「あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ」（伝道の書 12：1）

道具：ホワイトボード、ペン

対象者：小6×1 小5×1 小3×3 小2×2 未就園児×4

留意点：この世の万物は無価値という考え方や、人権思想などは、小学生以下のほとんどの子供には解らない。聖書を味読させ、聖書の主張に素直に耳を傾けさせることに意を用いたい。

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	この書を書いたのはソロモン王様だと言われます。 ソロモン王様のことで知っていることを挙げて下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ・王様 ・お金持ち ・知恵者 ・わからない 	「ソロモンの栄華」という言葉を紹介しておく、筆者のイメージを確立する手助けになるだろう。 解らない人が多い場合には、かいつまんでソロモンの繁栄ぶりを紹介したらいいだろう。
課題探究	6分	ソロモン王様は、この世のすべてを手に入れた人だと言えるでしょう。 その彼が、本日の暗誦聖句を言っているのです。 なぜだと思いますか。 そういう風に考え、また私たちに伝えなくてはと思った理由が2節から記されているので、一緒に読んでみましょう。 「 」内の言葉は、今でも老人たちが言うのを聞いたことがありますか。 2-3節は、何のことを言っていると思いますか。 2節はそんなに遅くなったら取り返しがつかないから、その前に造り主を覚えなさいと言っています。 4-5節はどういう意味だと思いますか。 6節はどういう意味だと思いますか。 7節はどう意味だと思いますか。		問うだけで、回答は求めない。 私たちに伝える必要があるから記され、今まで残っていることについては、この御言に聞く必然性の点で付言しておいた方が良いと思う。 一節ずつ読み進め、解説ないし実例を挙げていく。 以降、質問に食いついたら、そこから子供を社会の現実につなげていくように導き、1節が指摘する人間の姿が、今も変わらないことに気付かせる。 2-3節は世の終わりともいえるが、よりイメージしやすいものとして、その人の死としていきたい。高学年には合点がいくはずなので、その子が納得したら全体が納得したと判断して先に進んでよい。 4-5節は晩秋のイメージである。全て老いと死に結び付けて読み進めていく。 この箇所は教師主導でかいつまんで説明し、概略を掴ませる。 すべて盛んなものは、衰えることを意識させたい。 全てのものは、最後結局どうなるか、壊れ、砕け、死ぬということが本節で言っていることである。 どんなにか栄えたものも全て結局は無に帰することを言っている。 神なき人生は空しく、意味あるものにするには、神をまず覚えないことには始まらないということである。
まとめ	2分	これが栄華を極めたソロモンの、人生というものについての結論でした。 そのままではあなたの人生も、いくら栄えても最後は何もなくなってしまおうとソロモンは言っているのです。そうならないために、ソロモンはあなたを創られた方を覚えなければならぬと言っています。 創り主を覚える生き方とは、私は何のために生きるのか、考えながら生きる生き方です。私たちが創って下さった方のために、その生涯を使う生涯は、明らかに、創り主を覚えている生き方です。 暗誦聖句		187号のテーマからの反映。

